

(仮称) 多摩市文化芸術将来ビジョン 2024～2033 (案)

文化芸術で描く将来像 ～街と市民のあるべき姿とは～

将来ビジョンの柱  
文化芸術に親しむ市民のすそ野が広がっている  
気が付いたら、身近で日常的に本格的な文化芸術に触れている

街の姿 (第1回委員意見より)

- 将来ビジョン (抽象的な表現可)
- ・誰もが本物の文化芸術に触れられるよう、身近でお祭りやイベントが本格的に実施されている街
  - ・文化芸術鑑賞後に人々と余韻を楽しむ工夫がされており、コミュニティが広がっている街
  - ・日常生活を大切に、住んでいることに価値を見出すために、地域で文化芸術の土壌を耕している街
  - ・才能ある担い手を積極的に支援している街
  - ・市民が文化芸術に親しみを感じるために、文化芸術の敷居を低くする工夫を行っている街
  - ・文化施設が誰にでも開かれ、様々な体験ができ、生涯を通じて活動したいものが見つかる街
  - ・美しい街で文化芸術を楽しむために、地域の大学・企業・市民・行政が協力し住環境を整えている街

市民の姿 (第1回委員意見より)

- 将来ビジョン (抽象的な表現可)
- ・保護者は、子どもたちに文化芸術活動に参加・体験する機会を与え、子どもたちは、赤ちゃんの頃から文化芸術活動に触れている
  - ・子育て世代は、子どもを産み育てながらも途切れることなく文化芸術活動に参加している
  - ・ミドル世代は、積極的に文化芸術活動に参加し、文化芸術の人材育成が図られている
  - ・市民は、文化芸術鑑賞を身近で気軽に感じている
  - ・市民は、鑑賞をきっかけとした仲間との飲食やイベントを楽しんでいる
  - ・子どもたちは、文化芸術に参加・体験しており、文化芸術に対する興味を深めている
  - ・市民は、文化芸術活動が行われることの大切さを理解し、文化芸術活動や担い手を尊重している
  - ・市民は、「自分たちの街は自分たちできれいにしていく」という意識が芽生えている

メモ欄